

## I 実践

### 1 本校の人権教育の目標

- (1) 人権尊重を基盤とし、不合理な差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。
- (2) 正しい見方・考え方や強い意思、豊かな心情をもった生徒を育て、認め励まし合う豊かな人間関係を培う。

### 2 実践内容

#### (1) 朝のあいさつ運動の実施

生徒会役員を中心に、朝のあいさつ運動を実施している。11月の「いばらき教育月間」では、小学生と保護者を交えて活動を行った。



【あいさつ運動①】



【あいさつ運動②】

#### (2) 澄水の集い

隔年で実施する行事で、生徒たちは異学年の縦割りグループの中で、うどんの汁のレシピを考え、うどん作りと汁作りの係分担をする。当日は地域のお年寄りとともにうどんを作り会食を行う。また、行事の中で、うどんの味やアイデアを競うコンテストも行われる。



【澄水の集い①】



【澄水の集い②】

#### (3) 修学旅行先からの「修学旅行だより」の送付

修学旅行先から一人暮らしのお年寄りに絵はがきを出す取り組みである。毎年、実施している。



【修学旅行だより送付の様子①】



【修学旅行だより送付の様子②】

(4) 心ゆたかな体験学習でひまわり学園訪問

第1学年の宿泊学習の活動に、ひまわり学園の利用者との交流が実施される。体育的活動に参加したり、施設の職員の方の話を聞いたりすることを体験する。



【利用者の方と体育的活動を行っている様子】

【職員の方の話を聞いている様子】

(5) 地区敬老会への参加

9月1日に行われる地区敬老会に参加し、代表の生徒が作文を発表した。また、卓球部はお年寄りを席へ誘導したり、お茶を入れたりと会場係の手伝いをし、吹奏楽部は演奏を披露した。



【会場係を手伝っている様子】



【吹奏楽部の演奏】

(6) 人権作文コンテストへの取り組み

中学生人権作文コンテスト日立協議会に応募し、金賞と銀賞に各1名ずつ選ばれた。さらに本校の生徒が全国中学生人権作文コンテスト茨城大会の奨励賞を受賞した。

3 成果

(1) 毎月実施しているあいさつ運動は、互いに声を掛け合うことでよりよい人間関係を作る基盤となっている。

(2) 学校行事での取り組みでは、郷土愛やお年寄りへの思いやりの気持ちを育むことができた。特に澄水の集いでは、体験活動を通して、学年や世代を超えて協力し合ったり、うどん作りという郷土の伝統技能に触れたり、とても貴重な経験をすることができた。

II 今後の課題

日々の教育活動や学校行事を通して、よりよい人間関係の育成や、地域社会の一員としての自覚を再認識する実践に取り組むことができた。しかし、自他を大切に感情の育成は時間がかかることであり、引き続き本校の人権教育の目標である「豊かな心情をもった生徒を育て、認め励まし合う豊かな人間関係」の醸成を目指し、学校生活全体を通して取り組んでいきたい。